

2013年6月22日、富士山は「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」としてユネスコ世界文化遺産に登録されました。

富士山の世界遺産登録と並行して、静岡県は富士山世界遺産センターの整備を進めてきました。富士山世界遺産センター基本構想(2012年3月)には、富士山がもつ顕著な普遍的価値を次世代に継承し永く“守る”ほか、富士山の価値や魅力を楽しく“伝える”、富士山を通じて国内外の人々と広く“交わる”、富士山の自然や歴史・文化等を深く“究める”という4つの柱が活動のコンセプトとされています。とりわけ4つ目の柱は、センターが目標とする“富士山学”の構築と密接に関係します。

富士山学は、富士山の自然や歴史、文化に関する基礎的・個別的な調査研究にはじまりますが、それに留まりません。それらを総合・止揚した学際的な研究こそが新しい学問体系としての“富士山学”です。

富士山学は静岡や日本という地域研究に限られるべきではありませんし、人文科学や自然科学の一方に偏るものでもありません。富士山を軸とした、グローバルな視野からの普遍性を備えた比較研究。さらに文理の枠を越境しながら人間と自然・社会環境の関係性を包括的・総合的に読み解き現在を知り未来への提言とする学際研究。それこそが私たちが拓く富士山学です。

静岡県富士山世界遺産センター・ふじのくに地球環境史ミュージアム合同の第2回国際シンポジウムでは、昨年度のテーマを継承し、人文科学・自然科学を横断する課題—人類世 (Anthropocene)、そしてその成立に強い影響を与えた人類の移動というファクターを踏まえ「移動と人類世—移住、巡礼、遺産」「東西文化交渉のなかの富士山イメージ」「富士山周辺域の環境、過去・現在・未来」の3部から富士山学構築の可能性を拓いていきます。そのうえで富士山研究・世界遺産研究の分野に多大な貢献をされてきた国内外の研究者による講演、静岡県富士山世界遺産センター研究員による「信仰の対象」「芸術の源泉」に関する最新の調査研究成果報告を行い、富士山学研究の現状をお示しします。



3月2日(金) 専門セッション

富士宮市民文化会館小ホール

09:30 ~ 09:45

日本自然 2.0~富士山と人類世

Un-disciplining Fuji: Finding and losing Japan in the Anthropocene

マーク・ハドソン Mark J. HUDSON
(静岡県富士山世界遺産センター・ENS de Lyon)

セッション 1

移動と人類世—移住、巡礼、遺産

Movement and the Anthropocene: Migration, Pilgrimage, Heritage

09:50 ~ 10:20

地球規模の移住と人類世

—第二次大戦後の巡礼とツーリズムの拡大

Global migration and the Anthropocene: The expansion of pilgrimage and tourism after the Second World War

ジョン・イーデ John EADE (イギリス、ローハンプトン大学)

0:20 ~ 10:50

江戸時代参詣記にみる富士登山の習俗

The custom of climbing Mt Fuji in the Edo period as seen in the Sankeiki

井上卓哉 Takuya INOUE (富士山かぐや姫ミュージアム)

10:50 ~ 11:20

アルバニアにおけるもつれた移動の状況

—人類世再考

Entangled modes of movements in Albania: Anthropocene rethoughts

ナターシャ・グレゴリッチ・ボン Nataša Gregorić BON
(スロヴェニア芸術科学アカデミー)

11:20 ~ 11:50

クリュニー修道院をめぐる移動と景観

—人類世の線と点—

Movement and landscape around Cluny Abbey: Lines and dots in the Anthropocene

ウエンディ・アトキンソン Wendy ATKINSON
(フランス、FRV100)

11:50 ~ 12:10

パネルディスカッション チェア&ディスカッサント

:ティンカ・デラコルダ・カワシマ

Tinka Delakorda KAWASHIMA (山口県立大学)

12:10 ~ 13:10 休憩

セッション 2

東西文化交渉のなかの富士山イメージ

Mt. Fuji Image in Cultural Exchange

13:10 ~ 13:40

ヨーロッパ所在資料に記録された富士山—シーボルトとその同時代人たち

Recording Fuji-san for Europe: Von Siebold and his contemporaries
ダン・コック Daan KOK (オランダ、国立ライデン民族学博物館)

13:40 ~ 14:10

来船清人のみた富士山

Mt. Fuji painted and written by Qing Chinese who came to Japan
唐権 Quan TANG (中国、華東師範大学)

14:10 ~ 14:40

日本の内なる“中華”に屹立する富士山

—「日本型華夷意識」を中心に

Mt. Fuji confronting China: With a focus on the 'Japanese form of Chinese suzerainty'

松島 仁 Jin MATSUSHIMA (静岡県富士山世界遺産センター)

14:40 ~ 15:00

パネルディスカッション チェア&ディスカッサント

:ロナルド・トビ Ronald TOBY (アメリカ、イリノイ大学)

15:00-15:20 休憩

セッション 3

富士山周辺域の環境、過去・現在・未来

Past, Present and Future of Mt. Fuji and Surrounding Environments

15:20 ~ 15:50

森林と花粉 (仮題)

ミロスラフ・マコホニエンコ Miroslaw MAKOHONIENKO
(ポーランド、アダム・ミツケヴィッチ大学)

15:50 ~ 16:20

三保松原の保全 Conservation of the Pine Forest of Miho

菅原大助 Daisuke SUGAWARA (ふじのくに地球環境史ミュージアム)
山田和芳 Kazuyoshi YAMADA (ふじのくに地球環境史ミュージアム)

16:20 ~ 16:50

富士山における植物群落の分布

Distribution of plant community on Mt. Fuji

増澤武弘 Takehiro MASUZAWA (静岡大学)

16:50 ~ 17:20

静岡の先史時代の人類史

A prehistoric human history in Shizuoka

日下宗一郎 Soichiro KUSAKA (ふじのくに地球環境史ミュージアム)

17:20 ~ 17:40

パネルディスカッション チェア&ディスカッサント

:菅原大助